

北アルプス：五竜岳

- ◆日程 2022年2月11日(金・祝)～12日(土)
 ◆メンバー L：SD、OY、OT、TY

厳冬期の五竜岳に遠見尾根から登頂を目指した。下調べをすると、深いラッセル、強風下の稜線、クラストした急傾斜のトラバースなど厳冬期ならではの困難が予想された。登頂できる確率は3割くらいかもしれないが偵察になれば良いと考え計画を組んだ。結果的には厳冬期とは思えないほどの好天に恵まれたこともあり同ルートの登山者も多く、トレースも付いていたためさほどラッセルの苦勞もすることはなかった。

気温はマイナス10～15℃と比較的暖かく、風も風速10mくらいと弱く、危険個所と思われたトラバースや山頂直下の雪壁はクラストしてなくてちょうどいい締まりぐらいいアイゼンの爪が良く効いた。そうは言ってもやはり遠見尾根の長大さ、五竜山荘から五竜岳の間は一瞬の気の緩みも許されず緊張の連続であった。

今回五竜岳に登頂できたのは好天などの幸運に恵まれたことと、その幸運を活かすことが出来たメンバー全員の普段の山行の充実に尽きるだろう。メンバー全員の報告を掲載します。

(記：SD)

2月11日(金・祝) 天候：晴

前日の関東大雪予報で移動予定のバスが急遽 YCAT 発から八重洲口鍛冶橋駐車場に変更になるなど混乱しましたが朝6時には予定通りエスカルプラザ五竜に着くことが出来ました。入山前は厳冬期の五竜岳になんか登れるのだろうかかと心配していましたが好天とトレースに恵まれ快適に西遠見山まで歩きました。間近に迫る鹿島槍ヶ岳、五竜岳に興奮しつつ仲間との夕餉のひと時を楽しみました。

(記：TY)

南岸低気圧による関東地方の降雪予報により、搭乗予定の夜行バスの出発地の変更など多少のトラブルはあったが、予定通り11日6時頃に五竜とおみスキー場エスカルプラザに到着した。多くのスキーヤーとボーダーの中に、我々のほか数名の登山者がいるようであった。ゴンドラが運航開始する8時頃行動を開始するも、すでにゴンドラ待ちの長蛇の列、リフトを乗継、地蔵の頭下に着いたのは9時頃であった。しかし、頂上付近の積雪は3.6mとの表示もあったが、トレースもしっかりとあり、比較的締まった雪質のため、終始ワカンを使用したものの、ほぼ予定通りに西遠見山に到着した。

(記：OY)

久しぶりの本格雪山縦走だ。しかも初の厳冬期北アルプスである。自身の膝蓋骨骨折と直後のコロナ禍と続き、なかなか雪山縦走に行かれず、うずうずしていた。厳冬期の後立山では登頂確率は低いとのリーダーコメント。それでも、経験値を積めるので十分と参加を願い出た。前夜は南岸低気圧で首都圏は雪に見舞われたが、結果的に入山日は好天に。遠見尾根からは後立山が雲間に垣間見え、明日の登頂を期待しながら幕営地着。久しぶりの広々とした共同テントと共同食で快適に就寝。

(記：OT)

CT エスカルプラザ五竜 6:00 着/8:15 発(リフト)=地蔵の頭 8:52-小遠見山
 10:30-大遠見山 12:22-西遠見山 13:43(設営・夕食・20:00 就寝)

2月12日(土) 天候：晴

風も無く気温も高い朝に登頂を確信して歩き始めました。先行者も数名あり心強かったです。流石に五竜山荘より上は風強く寒く手指先が痛くなりました。所々足場の悪い急斜面にビビりながら五竜岳に立った時は誇らしい気持ちでした。一緒に登ってくれた皆さん、素敵な山を

ありがとうございました。

(記：TY)

風も少なく星空の下、予定通り5時に行動を開始する。トレースはしっかりとついていますが、雪は深いためワカンを着けてまずは五竜山荘を目指す。西遠見山から少し下った鞍部から白岳への急登が始まる。ワカンのためキックステップでしっかりと足場を固めての登りではあったが、空身のためか白岳ピークを経由しても6時30分ころ五竜山荘に到着した。



休憩を取りながらアイゼンに装備替えし、山頂を目指す。山荘を出て稜線上に立つとこれまでが嘘のように風が強い。厳冬期の北アルプスとしては弱い方と思われるが、指先は冷え時折バランスを崩すほどであった。ルートは夏道と同じで手前の岩峰はトラバースし、そこから尾根へほぼ直登する。フロントポイントでの直登、雪岩ミックスをトラバースと気が抜けないルートを抜けると頂上への稜線上に出ることができる。緩やかな稜線を暫く歩けば山頂標識が見えてきて、冬期五竜岳を登頂することができた。爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳、唐松岳と後立山の山々と日本海を望む眺望は絶景であった。

(記：OY)

日の出前の五竜山荘到着を目指し、5時発。リーダーと交互にラッセルさせて貰いながら急登を快調に進み、五竜山荘で日の出。ここでの補給不足が後に悔やまれることになる。ここからは鋭く切り立った五竜の北面に向けてトラバースや雪の急斜面が続く。急斜面ではところどころ雪が薄い岩壁があり、緊張でアイゼンの蹴り込みに力が入る。最後は風の吹き続ける雪の急斜面を登り切り、絶景の山頂へ。五竜山荘への下降途中、緩斜面でアイゼンが外れ掛かっていることに気付き、リーダーによる応急処置(*)。雪岩壁を過ぎたところで脱水と空腹により急に脚が動かなくなり、その場でメンバーから湯とゼリーを貰って急場を凌いだ(**)。散々だったが、以降は小春日和と好展望のなか撤収して快適に帰還。最高の山行に導いてくれた仲間、そして幸運を与えてくれた山の神様に感謝!! (*, **: ひやりハッと報告参照)

(記：OT)

CT：西遠見山 5:03-五竜山荘 6:29-五竜岳 8:36-五竜山荘 10:09-西遠見山
11:09(撤収)-大遠見山 12:51-地蔵の頭 14:51-アルプス平 15:05